

公表	事業所における自己評価総括表		
----	----------------	--	--

○事業所名	リトルポニークラブふくはら		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 1日 ~ 令和7年 2月 15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60	(回答者数) 49
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 1日 ~ 令和7年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	外の活動がメインであるため、自然とふれあいながら体を動かすことができること。匂い、温度、光、風を感じながらストレスを発散していくことができる。	活動内容を外活動メインで行っている。 雨の日は体育館活動が多い。 昔ながらの遊びを用いて他者との関わり促す。 毎月イベントを計画している。	昔ながらの遊びの中にルールを取り入れたり、あえて簡単にしたりしている。 定期的に働くための準備を行っていきたい。働くことが楽しいと思えるような活動を取り入れたい。
2	パソコン活動を行う。パソコン活動は学校でも必須科目になったが、なかなか特性を理解してもらしながらタイピングなどを習得するのが難しい児童が当事業所で特性や性格を理解してもらい、関係性を構築したうえでタイピング習得が出来る。	スマールステップを意識している。 ご褒美カードなどを使っている。 パソコン活動がおわったら外でも遊べる場所、時間を用意する。	体幹を鍛えるために馬上体操になれてきたら、馬の上のストレッチを増やしていきたい。手入れや準備を一人でできることで「できた」を増やしていきたい。
3	ホースセラピーに特化した馬がいること。 基本的に馬は怖がりであるため、ボールなどは苦手だが、当事業所の馬は専任のスタッフがいることで調教を毎日行い、人間との関係性を構築できていることでボールを使った馬活動が行える。	力加減や他者との距離感を掴むのが難しい子どもに対して調整するトレーニングを促すことができる。 馬が嫌なこと、嬉しいことをスタッフが伝えていく。	もっと馬のことを知ってもらえるように表をつくっていきたい。たくさんの馬とふれあい、性格を知っていくことで人はいろいろな性格がある、ということを知り、対応策を考えられるように促したい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者によっては様子や活動内容をしらないことがある。	保護者によっては送迎の際に会えないことがある。とくに大きなことがないとその日の様子を伝えられないことがある。	送迎の際にいらっしゃらないときはLINEでお伝えするようになる。 できることなるべく本人、保護者に伝えるようにする。
2	馬と触れ合うことでどんな効果があるかを利用する方で知らない方がまだまだ多い。	見学や個別で来場したとき時ぐらいしか馬のことを話せていない。	子どもにわかりやすく伝えるようにする。 掲示したりして子どもの「知りたい」を増やす 馬と触れ合う時間を増やす 掲示を増やす。
3	他事業所や市町村の福祉課、学校との連携が取っていないと感じている。	馬の世話や活動時のスタッフの人員確保の観点から交流の機会や研修の機会に参加できないことがある。	交流に参加する機会を増やしていく。 児発管だけではなく、スタッフ全員が外部の研修に参加するように企画する。